

がん治療における薬剤師の役割

患者さんの状態を踏まえ、必要な指導を行う

抗がん薬の副作用の状況を確認し、主治医に
対策や薬の提案を行う

チームの一員として、医療従事者と連携して
患者さんに安全ながん治療を提供する

がん治療の三本柱

①手術療法



②放射線療法



③薬物療法



抗がん薬の種類

①細胞障害性薬

②ホルモン療法薬

③分子標的薬

④免疫チェックポイント阻害薬

緊急を要する副作用

下痢が続き、下痢止め薬を服用しても改善しない

吐き気・嘔吐で1週間以上続き、まったく食事ができない

解熱剤や抗菌薬を服用しても発熱が改善しない

緊急を要する副作用 (免疫チェックポイント阻害薬)

疲労感が1週間以上続く、動けない

腹痛や1日5～6回の下痢・血便が1週間以上続く

安静時に呼吸困難や胸が痛い、動悸がある

めまいや意識障害がある

口が渇く、多飲と多尿がある

多職種が集まり、患者さんの治療方針を検討

副作用で治療が続けられない場合は別の治療を検討

副作用に対する薬や対策で、それらを予防、軽減

薬剤師はチームの中で薬の専門家として、患者さんへの副作用の説明や予防薬・治療薬の提案を行います

がん治療はチーム医療

